

## 題目 行動と意思決定時間の違いが他者の評判に与える影響に関する検討

氏名 一條航平

指導教官 高橋伸幸

世の中には、通りすがりに車に轢かれそうな猫を命がけで助けたり、冬の寒い日に川に飛び込んで溺れている子供の命を救おうとしたりする人々が存在する。Frank (1988)は感情に駆られて直感的に協力する行動は、良い評判を得るためのシグナルとして機能するのではないかと考察している。感情に駆られて非合理的な協力行動を行う人物は、よりよい評判を得られるのだろうか？そこで本研究では、感情に駆られて協力行動をしていることを示すシグナルの一つとして、意思決定時間に焦点を当てた。Evans, Dillon & Rand (2015)では、協力行動と意思決定時間との関連が検討された。グループに対する協力を測定する公共財ゲーム (PGG) における意思決定時間を測定した結果、決定時間が速い方が極端に協力 (グループに貢献する) もしくは非協力 (グループに貢献しない) をすることが示された。Yamagishi, Matsumoto, Takagishi, Li, Kanai & Sakagami (2017)では、SVO(Pro-Self か Pro-Social)と協力行動、意思決定時間の関連を検討した。その結果、意思決定時間が長いと協力的になるか非協力的になるかは、SVOのタイプによって異なることを示した。Evans, A. M., & Van De Calseyde, P. P. (2017).では、公共財ゲームにおいて、速い意思決定者は極端に協力または非協力すると推測されることを示した。これらの先行研究では、速く協力した人の方が遅く協力した人よりもよい評価が得られるのか、また遅く非協力した人の方が早く非協力した人よりもよい評価が得られるのかについては直接的に検討されていない。そこで本研究の目的は、行動と意思決定時間の差が他者から抱かれる印象に影響を与えるのかどうかを明らかにすることであった。本研究ではインターネットアンケートツールである、Qualtrics を用いて質問紙を作成し、調査を行った。社会的ジレンマ状況において、速く協力する人、速く非協力する人、遅く協力する人、遅く非協力する人を登場させ、それぞれの人物に対する印象がどのように異なるのかを検討した。その結果、同じ協力・非協力行動であっても、決定時間によって他者から抱かれる印象が異なる可能性が示唆された。ただし、すべての項目で意思決定時間の効果が見られたわけではなく、行動の効果の方が強いことが示唆された。本研究の結果から、Frank (1988)の考察が正しいのかを明らかにすることはできなかったが、感情に駆られて協力行動をしていることを示すシグナルの一つとして、意思決定時間は有効であるという知見を示した。